

町長コラム

温故 創新



事前防災

10年前の地震からまだ復興半ばで、熊本県では最大震度7の大地震が発生しました。関連死も含めた死者は38人、また酷暑の中、現時点でも3000人を超える方々が避難を余儀なくされています。

熊本市に住む友人もガソリンや食料品の確保に時間がかかるほか、続く余震の中なかなか気が休まらないのとどこでした。一刻も早い復旧への支援と全国からの想いを寄せた活動が急がれます。

また、千葉県では豪雨災害により死者13人、2800台を超える車両が路上に放置されるという前代未聞の被害となりました。この他にも、日本各地で大きな地震や山火事、今年は台風の数が多いことや、不規則なコースでの上陸がさらに被害を大きくしています。産業革命から250年余り、平均気温の上昇プラス1.5℃を目標に温暖化対策を進めてきましたが、すでにプラス1.5℃を超え2050年にはプ

ラス2℃を超える予測が出ています。プラス2℃になると異常気象の比率は2倍に、気温40℃以上になる酷暑日に該当する地域が国内100カ所以上にのぼると予測されています。

私たちは2年前の水害を経験し学習する中で、普段からできる事前防災の大切さを改めて実感しています。今年度清川地区では、「地区防災計画」策定を目標にみなさん一人ひとりが自分事として防災に取り組む活動を始めています。

自然災害には環境の変化を予測しながら最善の準備をする体制が不可欠です。また、互いに助け合える関係性の構築が求められています。はからずも、熊本の友人も「みんなに励まされるだけで希望がもてる」と話していました。そんな関係性の構築が事前防災の一步になると信じ事業展開していきます。



庄内町長 富樫 透